J

fx-100MS
fx-912MS (fx-115MS)

取扱説明書２（付加機能編）

■英文マニュアルをご覧のお客様へ
English Manual Readers!
本書巻末にある【重要】欄をご一読ください。
Please be sure to read the important notice at the back of this manual.

本書はお読みになった後も大切に保管してください。

CASIO
http://www.casio.co.jp/edu/
CA310109-001V04
SA0403-D Printed in China

計算方法の設定を初期状態に戻すには

計算方法の設定を初期状態に戻すには，SHIFT CLR 2 (Mode) = と操作します。

計算モード ..... COMP
角度指定 ..... Deg
表示桁数指定 ..... Norm 1／Eng OFF
複素数表示指定 ..... $a+bi$
分数表示指定 ..... a b/c
小数点表示指定 ..... Dot

計算を始める前に

本書に記載されていない項目の説明は，"fx-95MS/fx-100MS/fx-570MS/fx-912MS (fx-115MS)/fx-991MS 取扱説明書"をお読みください。

■各種モード

本機では，計算ジャンルごとに，計算モードを切り替える必要があります。下記の表を参考に，モードを切り替えてください。

● **下記のモード表は，fx-100MS/fx-912MS (fx-115MS)のものです。**

<fx-100MS/fx-912MS (fx-115MS)>

	モード名	キー操作
標準計算	COMP	MODE 1
複素数計算	CMPLX	MODE 2
標準偏差計算	SD	MODE MODE 1
回帰計算	REG	MODE MODE 2
n 進計算	BASE	MODE MODE 3
方程式計算	EQN	MODE MODE MODE 1

※ MODEキーを何度か押すと，セットアップ項目（Deg, Radなど）を選択することができます。セットアップ項目の詳細は，おのおのの説明をごらんください。

また，本書では，各章のタイトルに，必要なモードを記載してあります。計算ジャンルごとに，モードを使いわけてください。

例： 複素数計算 CMPLX

重要

● SHIFT CLR 2 (Mode) = と操作すると，すべてのモードや設定が初期状態にリセットされます。

計算モード ..... COMP
角度指定 ..... Deg
表示桁数指定 ..... Norm 1/Eng OFF
複素数表示指定 ..... $a+bi$
分数表示指定 ..... a b/c
小数点表示指定 ..... Dot

● モードやセットアップシンボルは表示部の上段に表示されます。ただし，n進シンボルは指数部に表示されます。
● 現在のモードがBASEモードのときは，Eng記号を使った計算はできません。
● 現在のモードがBASEモードのときは，角度単位指定と表示指定（Disp）の選択はできません。
● COMPモード，CMPLXモード，SDモード，REGモードは，角度単位指定と組み合わせて使用することができます。
● 計算を始める前に必ず計算モード（SDか，REGか，COMPか，CMPLXか）と角度指定（Degか，Radか，Graか）を確認してください。

数式計算と編集機能 COMP

数式計算と編集を行なうには，下記のように操作し，COMPモードを指定します。
COMP ..... MODE 1

■リプレイのコピー機能

リプレイ機能で記憶されている実行式を，マルチステートメントによる連続した式として表示する機能です。

例えば
1 + 1 = 2 + 2 = 3 + 3
という3回の計算を行なった後に，カーソルキー(▲▼)で1 + 1を表示させ，SHIFT ▲(COPY)と操作すると，画面には
1 + 1 : 2 + 2 : 3 + 3
と３つの計算式がマルチステートメントによって表示されます。これがリプレイのコピー機能です。

● 表示されたマルチステートメント式は = を押して順次実行することができます。（別冊取扱説明書のマルチステートメントの項参照）
● また，カーソルキーによって移動し，式を編集してから順次実行することも可能です。

■数式記憶機能（カルク機能）

COMP CMPLX

● 数式記憶機能は，同じ関数式の変数に異なった値を代入した答えを求めるときに使うと便利です。
● 数式の記憶は1つです（最大79ステップ）。本機能は，COMP モード，CMPLX モードのみ有効です。
● 変数値の入力画面には，変数名とともに現在の変数メモリーの値が表示されます。

例 $Y = X^2 + 3X - 12$に対して，Xに7を代入したときのYの値を求める。（答：***58***）また，Xに8を代入したときのYの値を求める。（答：***76***）

(関数式を入力) ALPHA Y ALPHA = ALPHA X x^2 + 3 ALPHA X − 12
(式を記憶) CALC
(X? 7を入力) 7 =
(X? 8を入力) CALC 8 =

※ 記憶された数式は，新たな演算やモード切り替え，電源オフによりクリアされます。

■ソルブ機能

式の変形や整理など方程式を解く手間を省いて，使われている任意の変数の値を求めることができる機能です。

例 地面から初速度Aで垂直に投げ上げた物体が高さBに達するまでにかかる時間をCとする。B=14(m)，C=2(s)，重力加速度D=9.8(m/s²)のとき，以下の関係が成り立つものとして初速度Aを求める。（答：A=***16.8***）

$$B = AC - \frac{1}{2}DC^2$$

ALPHA B ALPHA = ALPHA A × ALPHA C −
(1 ÷ 2) × ALPHA D × ALPHA C x^2
SHIFT SOLVE
(B?) 14 =
(A?) ▼
(C?) 2 =
(D?) 9 . 8 =
▲ ▲
(A?) SHIFT SOLVE

※ ソルブ機能ではニュートン法による近似計算を行なっていますので，誤差を生じる場合や，式や初期値によっては解が収束せずにエラーとなる場合があります。
- 求めたい変数の初期値（予想値）によっては，解が求められない場合があります。その場合は，変数の初期値に解に近いと思われる数値を入力してから，再度計算し直してください。
- 解の存在する式でも，解が求められない場合があります。

※ ニュートン法の性質上，次のような関数は解を求めにくい傾向にあります。
- 周期関数（$y = \sin x$ など）
- グラフを描いたとき，急勾配の部分を持つ関数（$y = e^x$，$y = 1/x$など）
- 不連続な関数（$y = \sqrt{x}$ など）

※ =のない式では，式=0として解を求めます。

関数計算 COMP

関数計算を行なうには，下記のように操作し，COMPモードを指定します。
COMP ..... MODE 1

■Eng計算記号入力

COMP EQN CMPLX

● Eng記号を使って計算を行なうことができます。
● MODEキーを数回押すと，次の表示が出ます。

```
Disp
1
```

1 を押してEng選択画面にして，1，2 キーで選びます。

1 (Eng ON) ..... Eng指定（"Eng"点灯）
2 (Eng OFF) ..... Eng解除（"Eng"消灯）

● Eng指定時に使用できるEng記号は，次の9種類です。

Eng記号	操作	単位
k (キロ)	SHIFT k	10^3
M (メガ)	SHIFT M	10^6
G (ギガ)	SHIFT G	10^9
T (テラ)	SHIFT T	10^{12}
m (ミリ)	SHIFT m	10^{-3}
μ (マイクロ)	SHIFT μ	10^{-6}
n (ナノ)	SHIFT n	10^{-9}
p (ピコ)	SHIFT p	10^{-12}
f (フェムト)	SHIFT f	10^{-15}

※ Eng記号は，数字部が1以上1000未満になる記号を選択して表示します。
※ 分数を入力中に，Eng記号は入力できません。

例 1 100m (ミリ) × 5μ (マイクロ) = 500n (ナノ)

MODE ····· 1 (Disp) 1 → Eng 0.
100 SHIFT m × 5 SHIFT μ = → 1⁄⁄⁄m×5μ n 500.

例 2 9 ÷ 10 = 0.9m (ミリ)

MODE ····· 1 (Disp) 1 → Eng 0.
Engでは通常の計算もEngに表示されます。 9 ÷ 10 = → 9÷1⁄⁄ m 900.
SHIFT ENG → 0.9
ENG → 9÷1⁄⁄ m 900.

例 3 1k (キロ) × 1k (キロ) = 1M (メガ)

MODE ····· 1 (Disp) 1 → Eng 0.
1 SHIFT k × 1 SHIFT k = → 1k×1k M 1.

例 4 1T (テラ) × 1000000000 = 1 × 10^{21}

MODE ····· 1 (Disp) 1 → Eng 0.
1 SHIFT T × 1000000000 = → 1T×1⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄⁄ 1. 21

※ Eng記号で表示される範囲は，整数部が1以上1000未満までです。それを超えると指数表示となります。

複素数計算 CMPLX

複素数を含んだ計算を行なうには，下記のように操作し，CMPLXモードを指定します。
CMPLX ..... MODE 2

● 角度単位の設定（Deg,Rad,Gra）が有効です。また，数式記憶機能（カルク機能）が利用できます。
● CMPLXモードで使える変数メモリーはA，B，C，Mに限られます。D，E，F，X，Yのメモリーは随時書き替えられますので使わないでください。
● 複素数の結果表示では，画面右上部に"R↔I"シンボルが点灯します。実部と虚部は SHIFT Re↔Im キーを押して表示を切り替えます。
● CMPLXモードでリプレイ機能を使用できます。ただし，複素数を記憶するため通常よりもメモリーを多く使います。

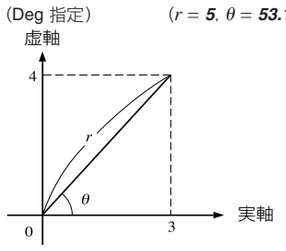
例 $(2+3i)+(4+5i) = 6+8i$

(実部 6) 2 + 3 i + 4 + 5 i =
(虚部 8i) SHIFT Re↔Im

■絶対値／偏角計算

直交座標形式 $z = a + bi$ で表される複素数を複素平面(ガウス平面)上の点とみなして，その絶対値(r)と偏角(θ)を求めます(極座標形式 $r\angle\theta$)。

例 1 3+4i の絶対値(r)と偏角(θ)を求める。
(Deg 指定) (r = ***5***, θ = ***53.13010235***°)



(r = ***5***) SHIFT Abs (3 + 4 i) =
(θ = ***53.13010235***°) SHIFT arg (3 + 4 i) =

● 複素数を，極座標形式 $r\angle\theta$ の形で入力することもできます。

例 2 $\sqrt{2}\angle 45 = 1 + i$
(Deg 指定) √ 2 SHIFT ∠ 45 =
SHIFT Re↔Im

■直交座標形式↔極座標形式表示切り替え

直交座標形式の複素数を極座標形式に，極座標形式の複素数を直交座標形式に，それぞれ切り替えることができます。

● 絶対値(r)と偏角(θ)は SHIFT Re↔Im キーを押して表示を切り替えます。

例 $1 + i \leftrightarrow 1.414213562 \angle 45$
(Deg 指定) 1 + i SHIFT ▸r∠θ = SHIFT Re↔Im
√ 2 SHIFT ∠ 45 SHIFT ▸a+bi = SHIFT Re↔Im

● 複素数の計算結果を直交座標形式($a+bi$)で表示させるか，極座標形式($r\angle\theta$)で表示させるかを切り替えることができます。
● MODEキーを数回押すと，次の表示が出ます。

```
Disp
1
```

1 ▶ を押して選択画面にして，1，2 キーで選びます。

1 ($a+bi$): 直交座標形式で表示する
2 ($r\angle\theta$): 極座標形式で表示する($r\angle\theta$シンボル点灯)

■共役複素数

$z = a+bi$ に対する共役複素数 $\bar{z} = a-bi$ を求めます。

例 1.23 + 2.34i の共役複素数を求める。
（答：***1.23 – 2.34i***）

SHIFT Conj (1 . 23 + 2 . 34 i) =
SHIFT Re↔Im

n 進計算 BASE

n進計算を行なうには，下記のように操作し，BASEモードを指定します。
BASE ..... MODE MODE 3

● 通常の10進数以外に，2進，8進，16進の計算を行なうことができます。
● n 進の指定には，計算機全体に与える方法と，個別の数値に与える方法があります。
● 関数の使用と，小数および指数を含む数値の入力はできません。

● 演算結果が小数を含む場合は，小数部を切り捨てて表示されます。
● 2進，8進，16進では，負数は2の補数をとります。
● n 進計算では，数値間の論理演算を行なうことができます。
論理積（and），論理和（or），排他的論理和（xor），排他的論理和の否定（xnor），否定（Not），負数（Neg）
● 各進数の有効範囲は以下のとおりです。

2進数	1000000000	≦ x ≦	1111111111
	0	≦ x ≦	0111111111
8進数	4000000000	≦ x ≦	7777777777
	0	≦ x ≦	3777777777
10進数	−2147483648	≦ x ≦	2147483647
16進数	80000000	≦ x ≦	FFFFFFFF
	0	≦ x ≦	7FFFFFFF

例 1 $10111_2 + 11010_2$を計算し，2進数で結果を表示する。 (***110001_2***)

2進数モードにする AC BIN → 0. b
10111 + 11010 =

例 2 $7654_8 \div 12_{10}$を計算し，8進数で結果を表示する。 (***516_8***)

8進数モードにする AC OCT → 0. o
LOGIC LOGIC LOGIC 4 (o) 7654 ÷
LOGIC LOGIC LOGIC 1 (d) 12 =

例 3 120_{16} or 1101_2を計算し，16進数および10進数で結果を表示する。 (***$12d_{16}$, 301_{10}***)

16進数モードにする AC HEX → 0. H
120 LOGIC 2 (or)
LOGIC LOGIC LOGIC 3 (b) 1101 =
10進数モードにする DEC

例 4 22_{10}を2進数，8進数，16進数に変換する。
(***10110_2, 26_8, 16_{16}***)

2進数モードにする AC BIN → 0. b
LOGIC LOGIC LOGIC 1 (d) 22 = → 10110. b
8進数モードにする OCT → 26. o
16進数モードにする HEX → 16. H

例 5 513_{10}を2進数に変換する。

2進数モードにする AC BIN → 0. b
LOGIC LOGIC LOGIC 1 (d) 513 = → Math ERROR b

※ 計算範囲の広いものから狭いものへの変換はできないことがあります。
※ "Math ERROR"は計算結果の桁あふれ（オーバーフロー）を示します。

統計計算 SD REG

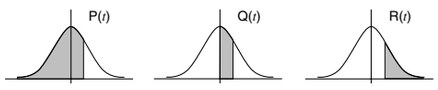
正規分布 SD

正規分布計算を行なうには，下記のように操作し，SDモードを指定します。
SD ..... MODE MODE 1

● SD，REGモードでは，M+ キーは DT キーとして働きます。
● SHIFT DISTR と操作すると次の表示が出ます。

```
P( Q( R( →t
1  2  3  4
```

1 〜 4 キーを使って確率分布計算をすることができます。



例 x データとして次の数値が既に入力されているとき，x = 53の標準化変量(→t)と，そのときの正規分布のP(t)を求める。
データ：55, 54, 51, 55, 53, 53, 54, 52
(→t = −***0.284747398***, P(t) = ***0.38974***)

55 DT 54 DT 51 DT 55 DT
53 DT DT 54 DT 52 DT
53 SHIFT DISTR 4 (→t) =
SHIFT DISTR 1 (P( ) (−) 0.28) =

微分計算 COMP

関数の微分係数の値を求めることができます。

微分計算を行なうには，下記のように操作し，COMPモードを指定します。
COMP ..... MODE 1

● 微分式として，xを変数とする関数式，微分係数を求める点(a)，xの増減分(Δx)の3つを入力します。

SHIFT d/dx 式 , a , Δx)

例 関数 $y = 3x^2 - 5x + 2$の点 $x = 2$における微分係数を求める。ただし，xの増減分を$\Delta x = 2 \times 10^{-4}$とする。（答：***7***）

SHIFT d/dx 3 ALPHA X x^2 − 5 ALPHA X + 2 . 2
2 EXP (−) 4) =

※ Δx は省略することができます。その場合は，適切な値が自動的に設定されます。
※ 不連続な点，急激に変化する部分では精度が出なかったりエラーになったりすることがあります。
※ 三角関数の微分計算をする場合は，角度単位をRad（ラジアン）に設定してください。

積分計算 COMP

関数の定積分の値を求めることができます。

積分計算を行なうには，下記のように操作し，COMPモードを指定します。
COMP ..... MODE 1

● 積分式として，xを変数とする関数式，定積分の積分範囲(a, b)，シンプソン法による定積分の分割数n（N = 2^n）の4つを入力します。

∫dx 式 , a , b , n)

例 $\int_1^5 (2x^2 + 3x + 8)\,dx$ = ***150.6666667***
ただし，分割数n = 6とする。

∫dx 2 ALPHA X x^2 + 3 ALPHA X +
8 , 1 , 5 , 6) =

※ 分割数n は，1 ~ 9 の整数を扱うことができます。また，分割数の入力は省略することもできます。
※ 積分計算は計算に時間がかかります。
※ 演算中は表示が消えます。
※ 三角関数の積分計算をする場合は，角度単位をRad（ラジアン）に設定してください。

電源および電池交換

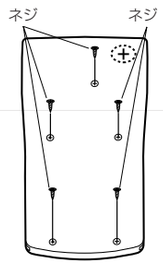
<fx-912MS (fx-115MS)>
電源には，太陽電池とボタン電池 <G13タイプ（LR44）>の2電源を使ったTWO WAY POWERシステムを採用しています。使用する場所の照度に制限のある太陽電池のみの関数電卓とは異なり，表示内容が確認できる明るささえあれば使うことができます。

● 電池の交換

ボタン電池が消耗しますと，特に暗い所で使用したとき
1. 表示が薄くて見にくくなる。
2. ON キーを押しても表示が点灯しない。

このような場合は， 以下の要領でボタン電池を交換してください。

① 本体裏面のネジをはずして，裏ブタを取りはずします。
② 古い電池を取り出します。
③ 新しい電池の表面を乾いた布でよく拭いてから ⊕ 側を上にして入れます。
④ 裏ブタをネジ留めします。
⑤ 電源 ON キーを押します。
（必ず操作してください）

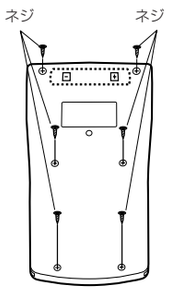


<fx-100MS>
電源に単3電池を1個使用しています。

● 電池の交換

電池が消耗しますと，液晶の表示が薄くなってきます。表示が薄くなったまま使用を続けますと，正常に動作しなくなることがあります。表示が薄くなってきたら，すみやかに電池を交換してください。

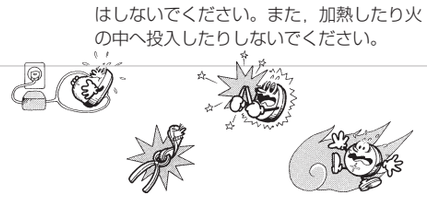
① SHIFT OFF キーを押します。
② 続いて裏面のネジをはずし，裏ブタをはずします。
③ 古い電池を取り出します。
④ 新しい電池の表面を乾いた布でよく拭いてから ⊕ 側と ⊖ 側を正しく入れます。
⑤ 裏ブタを閉じて，ネジ留めします。
⑥ ON キーを押します。



● 電池使用上の注意

電池の使い方を誤ると電池の液もれで製品が腐食したり，電池が破裂することがあります。次のことを必ずお守りください。
・⊕ ⊖ の向きを正しく入れてください （表面表示通りに）。

<危険> 充電や分解，ショートする恐れがあることはしないでください。また，加熱したり火の中へ投入したりしないでください。



電池は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合には， ただちに医師と相談してください。

● オートパワーオフ（自動電源オフ）機能

操作完了後，約６分で自動的に電源オフになります。計算機を再びご使用になるときには，ON キーを押すと電源オンとなります。

仕様

電源：<fx-100MS>
単3電池 1個
<fx-912MS (fx-115MS)>
太陽電池
ボタン電池 <G13タイプ（LR44）>1個

電池寿命：
<fx-100MS>
- 約17,000時間（カーソル点滅表示で連続放置）
- 約2年（電源OFFで放置）

<fx-912MS (fx-115MS)>
- 約3年（1日に1時間使用した場合）

消費電力： 0.0002W
使用温度： 0℃〜40℃
大きさ・重さ：
<fx-100MS>
幅 78 × 奥行 155 × 厚さ 20.0mm，133g
<fx-912MS (fx-115MS)>
幅 78 × 奥行 154.5 × 厚さ 12.7mm，105g
付属品： ハードケース

キーの働き

SHIFT シフトキー
キーパネル面に橙色で記されている機能を使うときに押します。SHIFTを押すと S が表示窓に点灯します。SHIFT と表します。

ALPHA アルファキー
キーパネル面に赤色で記されている変数や機能を使うときに押します。ALPHAを押すと A が表示窓に点灯します。ALPHA と表します。

MODE CLR モードキー
モード指定画面を呼び出すときに押します。MODE と表します。

SHIFT CLR クリアキー
すべてを初期状態にリセットするとき，モードや設定をリセットするとき，メモリーを消去するとき（COMPモード），統計計算用メモリーを消去するとき（SD/REGモード）に押します。

ON 電源 ON キー
本機の電源をONするときに押します。ON と表します。

カーソル移動キー
入力中のカーソル位置を移動するときに押します。◀ ▶と表します。
計算結果が表示されているときは，入力した計算式を呼び出します(リプレイ機能)。▲ ▼と表します。
複数の計算を行なった後に SHIFT▲と押すと，複数の計算式を一度に呼び出します(リプレイのコピー機能)。

0 ～ 9 • 置数キー
数値を入力するときに押します。

SHIFT Rnd 数値丸め
数値を有効数値10桁に丸めます（11桁目を四捨五入）。また，FIX，SCI モードが指定されているときは，その指定桁に丸めます。

SHIFT Ran# 乱数
0.000以上0.999以下の擬似乱数を発生させます。

SHIFT f ～ T 工学記号（COMP/EQN/CMPLXモード）
フェムト（f: 10^{-15}）～テラ（T: 10^{12}）までの工学記号を入力するときに押します。

SHIFT S-SUM / SHIFT S-VAR 統計量（SD/REG モード）
平均，標準偏差，回帰係数を呼び出すときに押します。

SHIFT DISTR 正規分布計算（SD/REG モード）
正規分布計算機能のメニューを呼び出すときに押します。

EXP 指数部置数キー
数値の指数部を入力するときに押します。

SHIFT π 円周率
円周率（π）を入力するときに押します。

AC オールクリアキー
入力されている計算式を消去するときに押します。

SHIFT OFF 電源 OFF キー
本機の電源をOFFするときに押します。

DEL デリートキー
間違えて入力した数値や機能を削除するときに押します。

SHIFT INS インサート
計算式に数値や機能を挿入するときに押します。

= 計算実行キー
入力した計算式を実行するときに押します。

SHIFT Re⇔Im 実部 / 虚部切り替え（CMPLX モード）
表示されている複素数結果の表示内容を実部（あるいは虚部）に切り替えて表示させるときに押します。

SHIFT % パーセント
パーセント計算をするときに押します。

Ans アンサーメモリーキー
最後に求めた演算結果を呼び出すときに押します。

SHIFT DRG▶ 角度単位変換
角度単位変換機能のメニューを呼び出すときに押します。

CALC CALC キー（COMP/CMPLXモード）
入力した計算式について数式実行(変数に値を入力しながら数式を実行)するときに押します。

SHIFT SOLVE SOLVE
方程式を解く手間を省いて，任意の変数の値を求めるときに押します。

ALPHA = イコール（COMP/CMPLXモード）
変数式のイコールを入力するときに押します。

∫dx 積分キー
積分計算をするときに押します。

SHIFT d/dx 微分
微分計算をするときに押します。

ALPHA : コロン
複数の式を区切るときに押します（マルチステートメント機能）。

x⁻¹ 逆数キー
逆数を計算するときに押します。

SHIFT x! 階乗
階乗を計算するときに押します。

LOGIC 論理演算（BASE モード）
論理演算機能のメニューを呼び出すときに押します。

---

x³ 三乗キー
三乗を計算するときに押します。

SHIFT ∛ 三乗根
三乗根を計算するときに押します。

ENG / SHIFT ENG エンジニアリングキー（COMP/SD/REG モード）
表示されている結果数値の指数部が 3 の倍数になるように変換するときに押します。

i 虚数 "i"（CMPLX モード）
虚数 "i" を入力するときに押します。

a b/c 分数キー
分数を入力するときに押します。
計算結果が表示されているときは，分数/小数の変換をします。

SHIFT d/c 帯分数 / 仮分数変換
表示されている帯分数を仮分数に変換するときに押します。

√ ルートキー
平方根(ルート)を計算するときに押します。

x² 二乗キー
二乗を計算するときに押します。

DEC 10 進数指定（BASE モード）
10進数演算を指定するときに押します。

^ べき乗キー
べき乗を計算するときに押します。

SHIFT x√ べき乗根
べき乗根を計算するときに押します。

HEX 16 進数指定（BASE モード）
16進数演算を指定するときに押します。

log ログ(常用対数)キー
常用対数を計算するときに押します。

SHIFT 10ˣ 10 の x 乗
10のx乗を計算するときに押します。

BIN 2 進数指定（BASE モード）
2進数演算を指定するときに押します。

ln エルエヌ（自然対数）キー
自然対数を計算するときに押します。

SHIFT eˣ e の x 乗
eのx乗を計算するときに押します。

OCT 8 進数指定（BASE モード）
8進数演算を指定するときに押します。

ALPHA e
自然対数の底(e)を入力するときに押します。

(−) 負数キー
負の数を入力するときに押します。

SHIFT ∠ 極座標形式入力（CMPLX モード）
複素数を極座標形式 $r\angle\theta$ の形で入力するときに押します。

°'" 60 進数キー
60進数(度･分･秒)を入力するときに押します。

SHIFT °'" 10 進数 ↔ 60 進数変換
表示されている結果を60進数(あるいは10進数)に変換するときに押します。

hyp 双曲線関数キー
双曲線関数を計算するときに押します。三角関数キーと組み合わせて使います。

SHIFT hyp 逆双曲線関数
逆双曲線関数を計算するときに押します。三角関数キーと組み合わせて使います。
hyp を押すと hyp が表示窓に点灯します。

sin cos tan 三角関数キー
三角関数を計算するときに押します。

SHIFT sin⁻¹，SHIFT cos⁻¹，SHIFT tan⁻¹ 逆三角関数
逆三角関数を計算するときに押します。

A ～ F 16 進数入力キー（BASE モード）
16進数のA～Fの数値を入力するときに押します。
STO，RCL，ALPHA キーと合わせて使うことにより変数メモリーA～Fの入力/呼び出しができます。

RCL リコールメモリーキー
メモリーに記憶した数値を呼び出すときに押します。

SHIFT STO ストアメモリー
計算した結果をメモリーに記憶するときに押します。

( ) カッコキー
カッコ計算をするときに押します。

SHIFT arg 偏角（CMPLX モード）
複素数の偏角を計算するときに押します。

SHIFT Abs 絶対値（CMPLX モード）
複素数の絶対値を計算するときに押します。
STO，RCL，ALPHA キーと合わせて使うことにより変数メモリーXの入力/呼び出しができます。

, カンマキー
カンマを入力するときに押します。

SHIFT : セミコロン
セミコロンを入力するときに押します。

SHIFT Conjg 共役複素数（CMPLX モード）
共役複素数を求めるときに押します。
STO，RCL，ALPHA キーと合わせて使うことにより変数メモリーYの入力/呼び出しができます。

M+ メモリープラスキー
計算結果をメモリーMに加算するときに押します。

SHIFT M− メモリーマイナス
計算結果をメモリーMから減算するときに押します。

DT データ入力（SD/REG モード）
統計のデータを入力するときに押します。

SHIFT CL データ削除（SD/REG モード）
入力されたデータを削除するときに押します。
STO，RCL，ALPHA キーと合わせて使うことにより変数メモリーMの入力/呼び出しができます。

+ − × ÷ 四則計算キー
四則計算をするときに押します。

SHIFT ▸r∠θ / SHIFT ▸a+bi 直交座標形式 ↔ 極座標形式表示切り替え（CMPLX モード）
直交座標形式の複素数を極座標形式に，極座標形式の複素数を直交座標形式に切り替えるときに押します。

SHIFT Pol(/ SHIFT Rec(座標変換
直交座標/極座標変換の計算をするときに押します。

SHIFT nPr / SHIFT nCr 順列 / 組み合わせ
順列/組み合わせの計算をするときに押します。

【重要】Important!
fx-912MSをお買上げのお客様へ
fx-912MS owners...

本書に記載されているfx-912MSは，英文マニュアルでは，fx-115MSに相当します。
英文マニュアルをご覧になる際は，fx-115MSに関する項目をお読みください。

The names fx-912MS (Japan domestic model name) and fx-115MS (international model name) apply to the same model. Owners of the fx-912MS who prefer to read English-language documentation should refer to the attached fx-115MS manual.

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2

CA310109-001V04